Focus in 南島原

まちの話題

輝く未来へ 497人が成人へ

1月4日、ありえコレジヨホールで南島原市成人式を開催し、新成人497人のうち、427人が出席しました、新成人代表の「二十歳の誓い」では2人が登壇し、保健体育の先生を目指し勉強中の福田秀さん（加津佐町）は、恩師の言葉を引用し、「未来を輝かせるのは自分自身だ」と話しました。

また、幼いころからソフトボールに打ち込んでいる相川理沙さん(西有家町)は「支えられる立場から支える立場になり、自分の行動に責任を持ちたい」と話しました。

五月会が島原振興局長表彰の受賞を報告

県が実施する県民参加の地域づくり事業において、市内の「五月会」が県島原振興局長表彰を受賞しました。

12月18日、受賞報告のため同会の髙木幸介会長をはじめとする関係者が市役所を訪問しました。五月会は、平成18年に発足し、現在18人のメンバーで年に4、5回、有家川の清掃活動を続けています。

この多年にわたる功績が高く評価され、今回の受賞に至りました。髙木会長は「これまでの活動が認められて嬉しい。」と喜びを語りました。おめでとうございました。

総合計画の答申書が提出されました

平成29年12月15日、総合計画審議会(松﨑博文会長)から市長に対し、第Ⅱ期南島原市総合計画の答申書が提出されました。

平成28年10月に市長から委嘱された21人の委員の皆さんが、昨年12月までの長期にわたり審議された結果を「第Ⅱ期南島原市総合計画(案)」として取りまとめ、今回、提出されたものです。

答申にあたり、松﨑会長は、「市には取り組むべき施策が多岐にあるが、計画案に掲げる「一人ひとりの“しあわせ”」の実現に向け、鋭意、邁進して欲しい」との要望を述べられ、これを受け市長は、「計画案に記載されている基本理念や将来像などについて市一丸となって実現に向け鋭意、取り組んでいく」という決意を示しました。

この計画案は、庁内での調整を経て、3月末までに策定され、その後、関係者・機関などに配布する予定です。

空手全国大会で石江さんが3位入賞

昨年11月に大阪市で開催された「第55回 全国空手道選手権大会」の小学2年女子個人の組手の部で、口之津小学校の石江りなさんが、見事3位入賞を果たしました。

今回の大会を振り返り、石江さんは「次はもっと勝ち上がれるように、強い気持ちを持って練習に励みたい」と語りました。おめでとうございました。

厚生労働大臣表彰を受賞

平成29年度社会福祉功労者の厚生労働大臣表彰を、民生委員・児童委員の小川絹子さんが受賞されました。

小川さんは、平成6年に旧深江町の主任児童委員の委嘱を受け、平成13年からは民生委員・児童委員として、これまで23年以上の長きにわたり地域住民のよき相談役として献身的に活動をされてきました。おめでとうございました。

ポンプ操法の腕を競い合う

平成29年12月11日、12日の2日間、南島原消防署で「南島原消防署ポンプ操法大会」が行われました。

この大会は、ポンプ操法技術の習得や指導者育成を目的として行われたもので、南島原消防署管内の消防署員で構成された、合計8チームが操法技術を競い合いました。

優勝は、1日目が有馬分署第二小隊、2日目が口之津分署第一小隊という結果になりました。

無火災を祈り出初式

1月5日、ありえコレジヨホールで消防出初式を開催し、消防団員ら約600人が参加しました。

式で大山消防団長は「『自らのまちは自ら守る』との郷土愛を胸に、消防人としての使命を果たすべく奮起を期待する」とあいさつをしました。

式の後、火災のない1年を願い、分列行進や放水訓練を行いました。

雲仙普賢岳災害で活躍した消防車を保存・展示

平成2年の雲仙普賢岳災害時にライオンズクラブ国際協会から寄贈された深江地区消防団の消防指揮車が役目を果たし、当時の噴火災害の記憶を風化させないためにとの思いから、道の駅「みずなし本陣ふかえ」で保存・展示されることになりました。

今回の保存・展示は、深江布津ライオンズクラブおよび「みずなし本陣ふかえ」のご協力により実現しました。関係者の皆さん、ありがとうございます。